

《調査報告》 御玉貫に使用されたガラス小玉の事例調査

上江洲安亨¹

I. はじめに

かつて首里王府では、正月元日、正殿下庫理御差床周辺(図1)に三御飾道具を飾り、国王が御差床に着座し、下庫理に居並ぶ家臣団と御酒・御茶を飲み合う祭祀儀礼を行なった(図2 三御飾御規式之時御座御飾之図。図3 下庫理御座之図)。このような国王と臣下が同じ空間で共飲の儀礼を行なう祭祀儀礼は、元日だけでなく年に数度行われた。沖縄美ら島財団では、平成12年度より、この三御飾道具の復元に取り組んできた。図2に図示された道具のほとんどは復元製作が終了しているが、御差床北側下段に図示された四基の水注状の酒器(図4)だけが未製作で、現在製作仕様の検討を行っているところである。この酒器は鎌倉芳太郎コレクションに残されている中城御殿で撮影された「錫製酒瓶御玉垂」(図5。以下、「御玉垂」と略す。)ではないかと想定している。鎌倉古写真の画像以外に「御玉垂」の現存事例は残されておらず、画像の色調等は不明な部分が多い。「御玉垂」の現存事例は残されていないが、類似事例として徳利状の金属瓶にガラス小玉を編んで模様を施す「御玉貫」という酒器が残っている²。

本稿では、現存する「御玉貫」の一部についてガラス小玉の形状、色調の整理を行い、製作仕様の検討分析の基礎データとすることを目的とする。

II. 御玉貫の現存事例の調査

今年度の調査では、御玉貫が現存している伊是名村の銘苅家伝来の「黄色地巴紋御玉貫」(図6)、名嘉家伝来の「緑地御玉貫」(図7)、沖縄県立博物館・美術館所蔵の「玉貫錫瓶」(図8 美里御殿旧蔵)、「錫製五色玉瓶子」(図9)、浦添市美術館所蔵の「緑地巴紋御玉

¹一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理センター 首里城事業課 副参事(博士(芸術学))

²御玉貫に関する主な先行研究は、久保智康「琉球の金工」(『日本の美術』第五三三号 ぎょうせい 2010年9月)70~71頁。『沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査報告書』(沖縄県教育委員会 2011年3月)所収の久保智康「琉球におけるガラス小玉の展開」56~68頁。稲福政斉「御玉貫についての試論」20~28頁。早川泰弘「ポータブル蛍光X線分析装置による沖縄県所在ガラス・玉製品の現地調査」70~77頁。平尾良光・魯禊玆・石川優生・韓ソレイ・早川泰弘「琉球王国のガラスの科学的調査」78~98頁。上江洲安亨「家譜史料にみえる近世琉球期の御玉貫の使用事例」182~191頁。上江洲安亨『琉球国の祭祀儀礼道具の研究』(令和4年度 沖縄県立芸術大学 提出博士論文 2023年3月)がある。

貫」(図 10 與那城御殿旧蔵)、沖縄美ら島財団所蔵の「御玉貫」(図 11)、「黒漆螺鈿采配(三ツ巴紋御玉貫の蓋付き)」(図 12)の調査を行った。

調査方法は、①目視による熟覧、②写真撮影記録、③マイクロスコープによるガラス小玉の撮影記録、④ガラス小玉の色調をカラーチャートと比較した類似色調の記録調査を行った²。記録した画像(接写撮影を含む)・マイクロスコープ画像、カラーチャートとの比較記録の一部は、下記の図版を参照してほしい。なお、カラーチャートによる作品のガラス小玉との比較調査は最も近似した色調を記録した。

Ⅲ. 調査のとりまとめ

1. ガラス小玉の成形方法

ガラス小玉の成形方法は、事例調査で螺旋状な形状(図 8-4・図 11-2)や、成形の最後に角状の突起が残っている小玉が多々みられるため、巻き上げ技法を用いている(図 6-1・図 6-2・図 6-3・図 7-7・図 8-5・図 9-2・図 12-4・図 12-5 等多数)。

2. 主なガラス小玉の透明度

①黄色系ガラス小玉

黄色系ガラス小玉は、色調の違いはあるが、ほとんど不透明のものが多い(図 6-1・図 6-4・図 6-5・図 6-6・図 6-7・図 7-6・図 7-7・図 8-7・図 9-4・図 10-6・図 11-4・図 12-3・図 12-4・図 12-8)。

②赤色系ガラス小玉

赤色系ガラス小玉は、色調の違いはあるが、半透明なものが多い(図 6-5・図 6-12・図 7-2・図 7-3・図 7-6・図 8-3・図 8-8・図 10-7・図 11-3・図 11-5・図 12-5・図 12-7・図 12-9)。

③紫色系ガラス小玉

紫色系ガラス小玉は、今回の調査では伊是名村の「黄色地巴紋御玉貫」の蓋部分のみに使用が認められた(図 6-4・図 6-9)。いずれも半透明であった。「黄色地巴紋御玉貫」は同治 9 年(1870)に王府が伊是名島の銘苧家に下賜したもので製作下限が明確な作品である。先行研究にもある通り(稲福 2011・上江洲 2023)、紫色半透明のガラス小玉は、19 世紀後半の御玉貫の使用されるガラス小玉の特徴と思われる。

④緑色系ガラス小玉

緑色のガラス小玉は、半透明が多く、名嘉家の「緑地御玉貫」(図 7)、「御玉貫」(図 11)、「緑地巴紋御玉貫」(図 10)、「玉貫御瓶」(図 8)は御玉貫の地色が緑色のガラス小玉で覆われているように見える。しかし、詳細に観察すると、濃緑色・薄緑色・水色・青色等のガラス小玉が混在している(図 7-8・図 7-9・図 11-1・図 11-2・図 10-1・図 10-2・図 8-1・

³類似色調の記録調査には、DIC カラーガイド 中国の伝統色 第 3 版を使用した。

図 8-2・図 8-3・図 8-11)。これが「錫製五色玉瓶子」(図 9) や、蓋だけが残っている「黒漆螺鈿采配(三ツ巴紋御玉貫の蓋付き)」(図 12) では緑色の色調が徐々に均質になってきている(図 9-1・図 12-2・図 12-3・図 12-6・図 12-7)。緑色系ガラス小玉の色調が不均一から均質に推移するのは製作年代に起因し、不均一な色調の事例は製作年代が古いものと思われる(上江洲 2023)

⑤黒色系ガラス小玉

黒色系ガラス小玉は、ほとんど不透明であった(図 6-7・図 9-8・図 10-5・図 11-3)。

⑥白色系ガラス小玉

白色系ガラス小玉は、色調の違いはあるが白色不透明(図 6-2・図 7-1・図 7-8・図 7-9・図 8-2・図 8-5・図 8-9・図 10-1・図 11-1・図 11-6・図 11-7・図 11-8・図 12-9)が多い。しかし、白色半透明(図 7・図 7-9・図 8-2・図 9-2・図 9-6・図 9-7・図 9-8・図 11-1)、透明(図 6-2・図 10-5)の事例も確認された。

4. ガラス小玉の編み方

ガラス小玉の編み方は、名嘉家の「緑地御玉貫」の身部分が6個繋ぎである(図 7・図 7-6・図 7-7)。今回の調査では、「緑地御玉貫」(図 7) 以外は全てガラス小玉4個繋ぎである(図 8-1・図 8-2・図 9-1・図 10-1・図 11-1)。東京国立博物館所蔵で明治5年(1872)に奄美大島で収集された「タマハベル(玉ホベル)」も6個繋ぎである⁴。奄美大島は慶長14年(1609)の島津の琉球侵攻以降、薩摩藩に割譲されるため、「タマハベル」が王府より下賜されたのは古琉球期に遡る可能性がある。御玉貫(小)の身は緑地で主模様は名嘉家の「緑地御玉貫」と同じ六弁花模様である。先行研究でも触れられているが名嘉家の「緑地御玉貫」や尚家の御玉貫(小)の身の製作仕様は、「タマハベル」の編み方と類似することから古琉球期に遡る可能性があるものと思われる(上江洲 2023)。

5. ガラス小玉を編んだ糸

ガラス小玉を編んだ糸についてもマイクロSCOPE撮影・デジタルカメラによる接写撮影を行って記録した(図 7-1・図 7-2・図 7-3・図 7-4・図 7-5・図 8-3・図 8-5・図 9-7・図 9-8・図 10-2・図 10-3・図 10-4・図 10-5・図 11-2・図 11-3・図 12-2・図 12-3・図 12-4)。多くは褐色の縊りがあまりかかっていない苧麻系の糸を使用している。一部、晒して漂白した可能性のある白色の糸を使用した事例もあった(図 9-7・図 9-8)。

まとめ

今回調査を行った御玉貫のガラス小玉の製作仕様に関する特徴を幾つか挙げてみる。

⁴ 『東京国立博物館図版目録 琉球資料篇』(東京国立博物館 2002年5月15日) 130頁・237頁。

- ①巻き上げ技法による成形が多く、螺旋状であったり、巻き上げた最後に角状の突起が残っているガラス小玉をそのまま使用している事例が多くあった。
 - ②透明度は黄色系・黒色系が不透明、赤色系・紫色系・緑色系はほとんど半透明であった。白色系は不透明が多いが、半透明・透明の事例もあった。
 - ③緑色系ガラス小玉の色調が不安定な作品がいくつか見受けられ、「緑地御玉垂」（図7 名嘉家伝来）、「玉貫錫瓶」（図8 美里御殿旧蔵）、「緑地巴紋御玉貫」（図10 與那城御殿旧蔵）、「御玉貫」（図11）は、地色を中心とした緑色系ガラス小玉の色調が濃緑色・薄緑色・水色・青色等、ばらつきがみられた。しかし、「錫製五色玉瓶子」（図9）は色調のばらつきが緩和しており、「黄色地巴紋御玉貫」（図6 銘苧家伝来）の緑色は安定している。おそらく色調の差異は製作時期と関連があり、緑色の色調が安定している事例が後世のものとなると思われる。
 - ④ガラス小玉の編み方は図7の名嘉家の「緑地御玉貫」は6個結びであるが、今回調査を行った他の事例は4個結びであった。これも製作時期と関連があり、奄美に残っていた「タマハベル」が6個結びであることから、王府から下賜された御玉貫も6個結びから4個結びに変遷していったものと思われる。
 - ⑤ガラス小玉を編んだ糸は褐色の縊りがあまりかかっていない苧麻系の糸を使用していると思われる。一部白色の糸を使用している事例があり、晒して漂白した可能性のある糸を使用した事例も見受けられた。
- 本稿では、今年度調査を行った写真撮影記録（接写撮影を含む）、マイクロスコープ撮影、カラーチャートで比較した類似色調の記録の一部の公開を目的とし、詳細な考察は今後の課題としたい。三御飾御規式に使用した御玉垂と思われる酒器の復元の基礎資料として今後調査結果の整理分析を行っていきたい

図版



図1 正殿下庫理の御差床

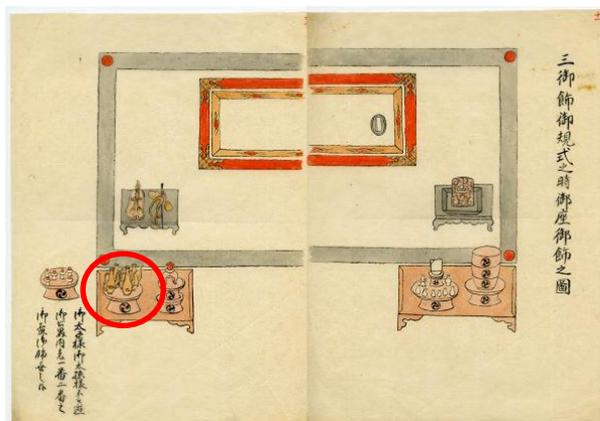


図2 『図帳 当方』三御飾御規式之時御座御飾之圖
 沖縄県立芸術大学 鎌倉芳太郎コレクション
 正殿一階玉座周辺に飾られた三御飾道具の配置図
 円で囲った水注状の酒器が「御玉垂」と思われる。

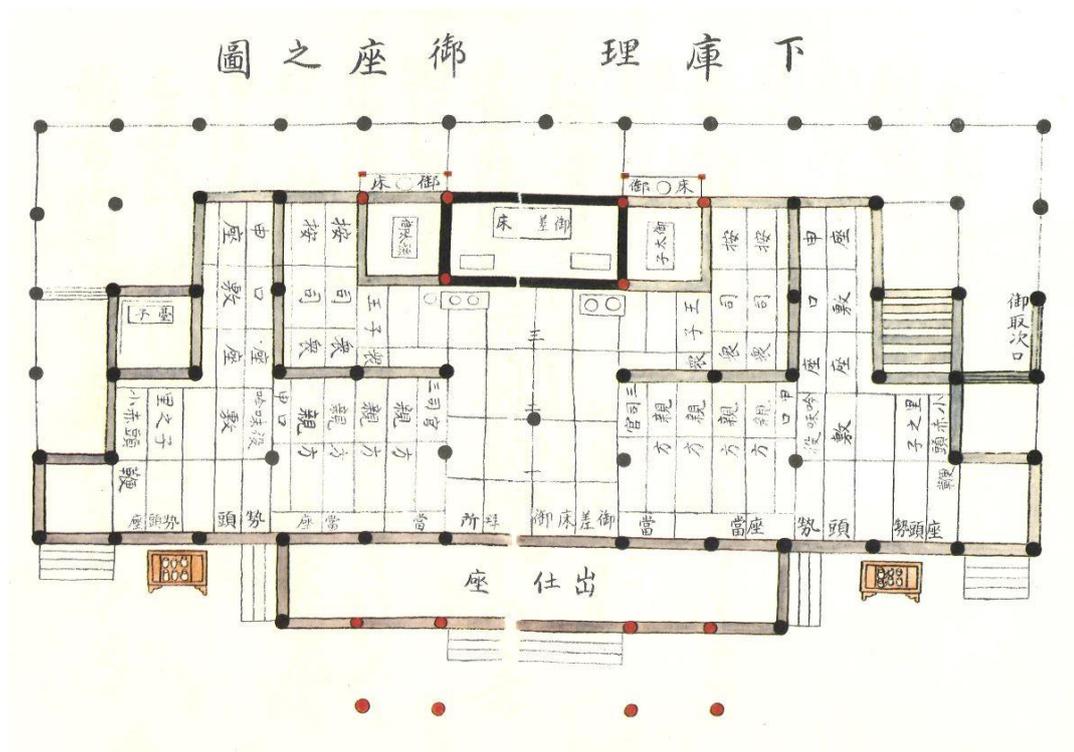


図3 『図帳 当方』下庫理御座之圖
 沖縄県立芸術大学 鎌倉芳太郎コレクション
 正殿下庫理（一階）で三御飾御規式を行った時に家臣団が着座する配置図。
 御差床周辺に王子衆・按司衆、下座に三司官・親方が着座していた。

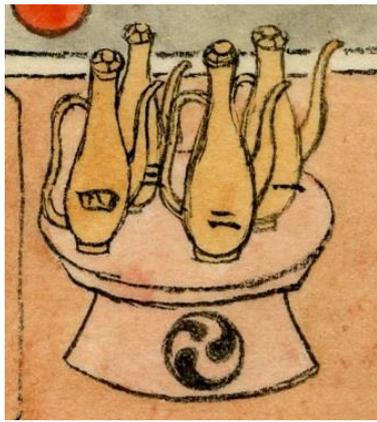


図4 『図帳 当方』
三御飾御規式之時御座御飾之圖
拡大画像



図5 「錫製酒瓶御玉垂」
沖縄県立芸術大学
鎌倉芳太郎コレクション



図6 「黄色地巴紋御玉貫」
伊是名村



図6-1
マイクروسコープ画像



図6-2
接写画像



図6-3
マイクروسコープ画像



図 6-4
接写画像



図 6-5
接写画像



図 6-6
接写画像



図 6-7
接写画像

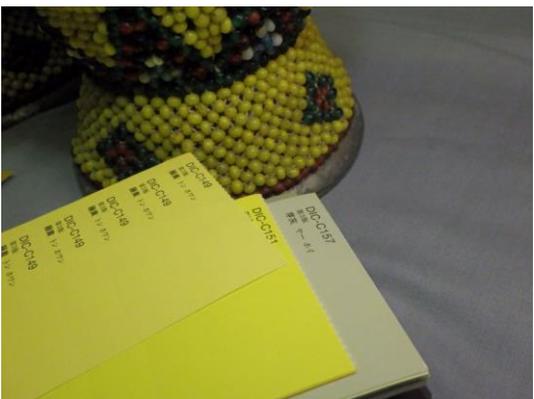


図 6-8
色調の確認

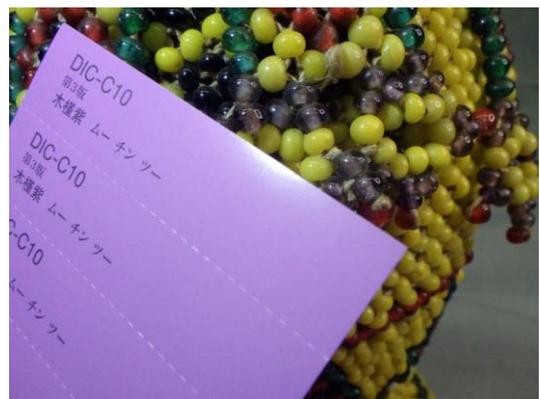


図 6-9
色調の確認



図 6-10
色調の確認



図 6-11
色調の確認



図 6-12
色調の確認



図 7 「緑地御玉貫」
伊是名村



図 7-1
マイクロスコップ画像



図 7-2
マイクロ스코プ画像



図 7-3
マイクロ스코プ画像



図 7-4
マイクロ스코プ画像



図 7-6
接写画像
ガラス小玉が 6 個繋ぎ



図 7-7
接写画像
ガラス小玉が 6 個繋ぎ



図 7-8
高台。地色の緑色は色調が不揃い



図 7-9
高台部分の接写画像
緑色の色調が不揃い



図 8 「玉貫錫瓶」
沖縄県立博物館・美術館



図 8-1
地色の緑色は不揃い



図 8-2
地色の緑色は不揃い



図 8-3
マイクروسコープ画像



図 8-4
 マイクロスコープ画像
 螺旋状に成形していたことがわかる。



図 8-5
 マイクロスコープ画像

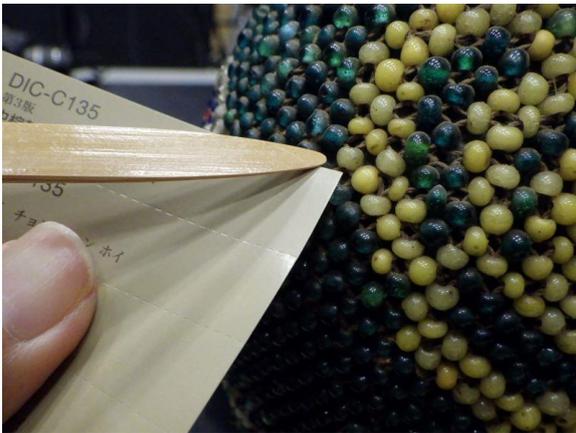


図 8-6
 色調の確認



図 8-7
 色調の確認

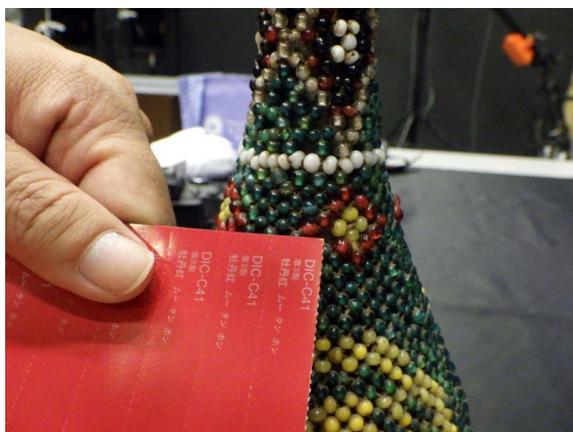


図 8-8
 色調の確認

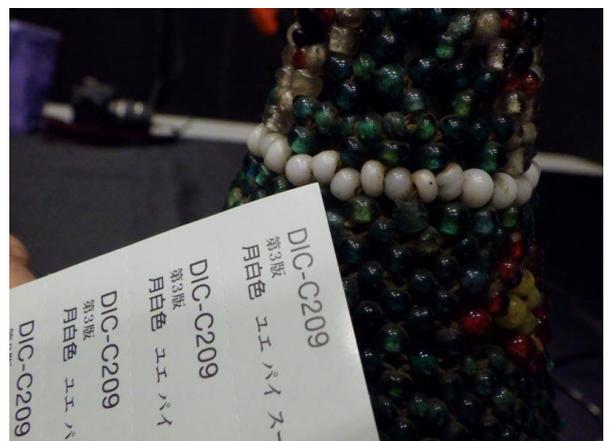


図 8-9
 色調の確認



図 8-10
色調の確認



図 8-11
色調の確認



図 9 「錫製五色玉瓶子」
沖縄県立博物館・美術館



図 9-1



図 9-2
マイクロスコップ画像



図 9-3
マイクロスコップ画像

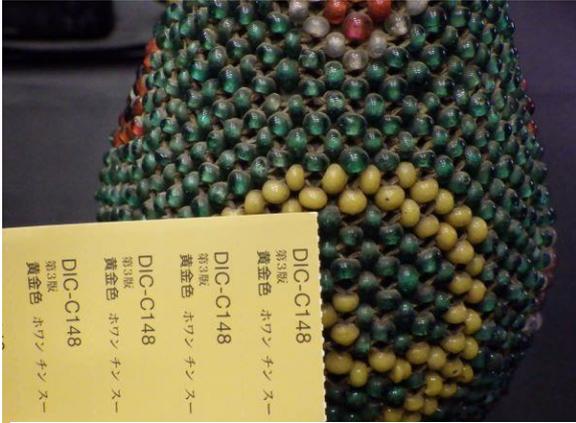


図 9-4
色調の確認



図 9-5
色調の確認



図 9-6
色調の確認



図 9-7
接写画像



図 9-8
接写画像



図 10 「緑地巴紋御玉貫」
浦添市美術館



図 10-1



図 10-2
マイクروسコープ画像



図 10-3
マイクروسコープ画像



図 10-4
マイクروسコープ画像



図 10-5
マイクروسコープ画像

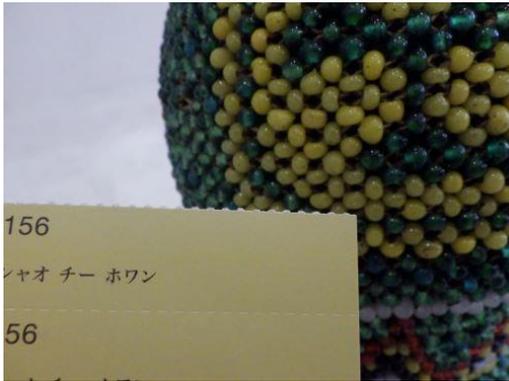


図 10-6
色調の確認



図 10-7
色調の確認



図 11 「御玉貫」
沖縄美ら島財団



図 11-1
地色の緑色は不揃い



図 11-2
マイクロSCOPE画像
緑色が不揃い。螺旋状に成形



図 11-3
マイクロSCOPE画像



図 11-4
色調の確認



図 11-5
色調の確認

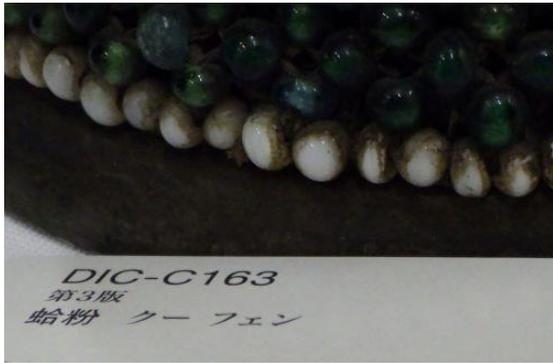


図 11-6
色調の確認

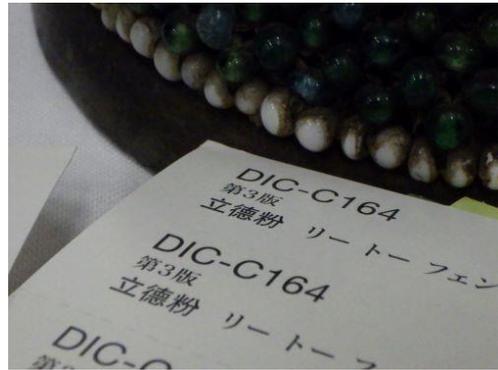


図 11-7
色調の確認

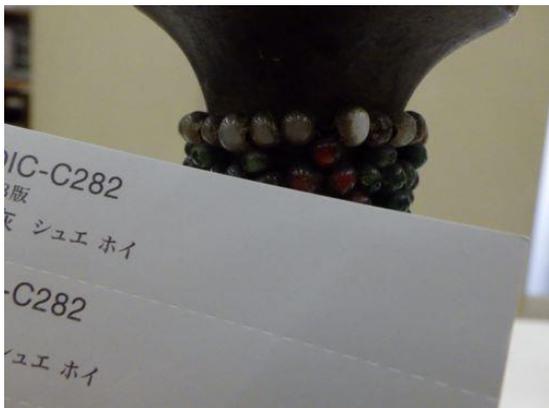


図 11-8
色調の確認



図 12 「黒漆螺鈿采配 (三ツ巴紋御玉貫の蓋付き)」
沖縄美ら島財団



図 12-1

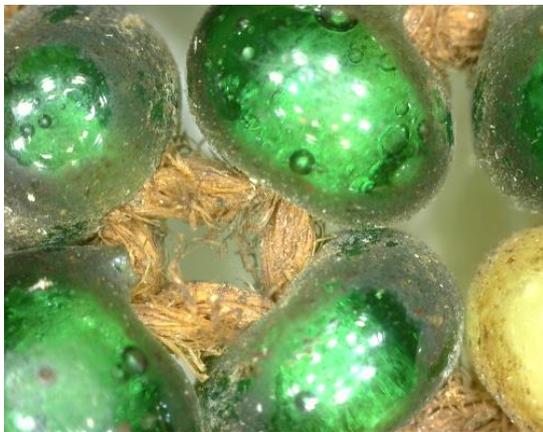


図 12-2
マイクロスコープ画像



図 12-3
マイクロスコープ画像



図 12-4
マイクロスコープ画像



図 12-5
接写画像



図 12-6
接写画像



図 12-7
接写画像

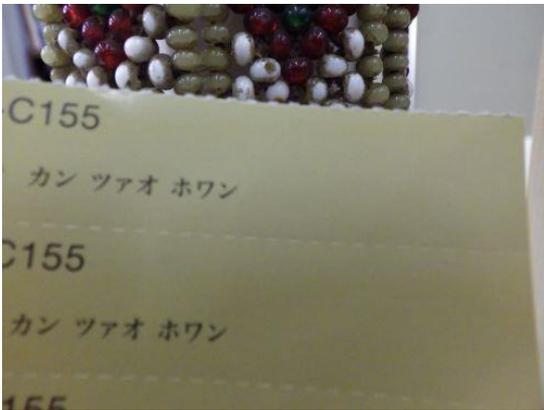


図 12-8
色調の確認



図 12-9
色調の確認



図 12-10
色調の確認



図 13 マイクロスコープによる調査の様子